

2022年度（令和4年度）教育課程特例校実施状況について（自己評価・学校関係者評価）

国本女子中学校

自己評価

項目	教員スタッフ・指導体制	カリキュラム・授業	生徒の成長	対外的情報提供	その他
評価	5	5	5	4	
現状分析・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の外国人教員が5名、非常勤1名が勤務している。2023年9月以降は1名増員し、内、アルバータ州の教員免許所持者は4名勤務することになっている。4名はそれぞれ、国語、理科、数学、社会を主な担当科目としている。 ・アルバータ州の教員免許保持者は日本の特別免許も保持し、英語で教科指導ができる体制を整えている。 ・英語学習ルームを設け、放課後はアルバータ州教員、JETプログラムのALTが常駐し、生徒の質問や英会話学習、英検対策にあたった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では教育課程特例校制度のイマージョン教育認定により、段階的に英語による教科学習を取り入れ、高校での日本・カナダ融合教育課程での学びに接続できる教育課程を編成している。 ・英語力に差がある場合は、一部授業を習熟度別クラスに編成し、対応した。 ・コロナ渦においては、一部に特例校生徒のイマージョン教育にもオンライン授業を取り入れることで、学習の継続を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校2年で英検準1級合格者2名、中学校3年で英検2級合格者4名の合格者を出した。 ・各ホームルームにもアルバータ州教員が副担任として入ることによって、授業だけではなく日常生活からも英語を学ぶ学習環境を提供できた。 ・英語自体を学ぶことにはもちろん、イマージョン教育を行うことで、英語で教科を学ぶ意識を身に着けることができ、高校課程で本格的に始まるアルバータ州プログラムへの効果的な接続が可能になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトの更新時期に当たり、特例校としての対外的な情報発信の面ではやや欠けた面もあった。 ・facebook、twitterなどのSNSを活用し、特例校指定を受けたイマージョン教育の授業の様子を発信した。 ・保護者には毎回の保護者会で生徒の成長の様子、特例校制度における授業の様子などを逐次、伝えた。 ・イマージョン教育の教科学習は通常の通知表に加えて、生徒の学習状況を説明するレポートを作成し、保護者に周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

学校関係者評価

項目	総合
評価	4
意見・要望	<ul style="list-style-type: none">・教育課程特例校制度が開始された1期生だったので、特例校としての成果がまだ出ていない状況で、先の見通しに多少の不安を感じることもあった。・コロナ渦においては、オンライン授業を取り入れることで、学習の停滞を最小限に抑えたと思う。・英語を学ぶこと自体を目的とせず、英語で教科学習をするためのイマージョン教育はこれからのグローバル時代に合った教育方法だと思う。・イマージョン教育を取り入れることで、授業数が増え、特に部活動に取り組んでいる生徒に過負担が生じる場面もあった。・英語によりアウトプットが多い授業が多くあり、満足している。・帰国生など様々な背景を持った生徒を受け入れていることは、今の時代の学校の在り方に適合していると思う。

5：評価できる、4：やや評価できる、3：どちらともいえない、2：やや評価できない、1：評価できない